

小網代の森と干潟を守る会
小網代 森と干潟つうしん



森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5
代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com
TEL.046-889-0067 (仲澤)
URL: http://www.koajiro-higata.com
年会費: 一般会員 ¥1000 賛助会員 ¥5000 (入会金不要 7月~6月)
郵便番号: 00260-4-21569 小網代の森と干潟を守る会

第 120 回自然観察&クリーン

春・芽吹き 命にぎわう小網代の森と干潟



例年に同じく 4 月 29 日 (昭和の日) に春の観察会を実施しました。天気が心配されましたが、森の外周を楽しく散歩しました。三崎口駅に集合したのは 22 名 (スタッフ 10 名, 参加者 12 名)。定刻に出発し, 国道を引橋へ向かいました。天気が悪いものの三浦半島, 房総半島の山々, 遠くは江ノ島まで望むことができ, 三崎台地の構造を確かめながら引橋へ到達し, 小網代の谷を俯瞰しました。引橋は小網代の谷の最上流部分になり, 東京湾と相模湾の分水界にあたります。分水界には県道が通り, 一番狭い部分では数十 m という狭い尾根になっています。小網代の谷側は県道脇から急な深い谷を形成しているため, 樹木の樹冠観察には適しています。自

分の目線で樹冠が観察できる貴重な場所で, マテバシイ, シロダモ, スダジイ, ハゼノキ, アカメガシワなどそれぞれ特徴的な新芽をじっくりと観察しました。また, この季節は花の季節でもあります。樹冠に絡みついたフジの花はよい香りを放ち, 目も楽しませてくれます。ミズキの花は例年に比べて少々遅いようですが, 白くかわいい花を咲かせ始めていました。

引橋での観察後, 小網代の谷の南縁部に沿って小網代の谷の最高地点 (小網代給水塔の 100m ほど東側) に移動し谷の全景を観察しました。コナラ, ハゼノキ, スダジイが特徴的でその他にも様々な新緑が目飛び込んできます。緑の種類だけ樹木の種類があるんですね。夏になってしまうとわからなくなってしまいますが, この時期と秋は樹木観察にはよい季節です。最高地点から下り始めると南側に三崎の市街地, 城ヶ島, 少し東に目を移すと三浦市の最高峰岩堂山を望むことができ, 気持ちよい尾根歩きができます。ただ, ここ数年で宅地がかなり増えてきたようです。交通量も多いので注意が必要です。

尾根道の途中から宮前の峠に抜ける赤道に入ります。この赤道は白髭神社脇に注ぐ南の谷と中央の谷 (中央南の谷) の分水界になっています。南の谷の最上流部にはかなり樹齢のあるイチョウが数本植栽されており, ここにはかつて何かがあったものと思われま。その尾根道を伝って, 宮前の峠におりました。宮前の峠から小網代の谷側はオープン前の工事が行われているため立入禁止になっていますので南の谷を白髭神社まで歩きました。今までの尾根歩きとは異なった趣の谷歩き。マルバウツギやヤマツツジが花を咲かせ, クサノオウ, ムラサキケマン, キケマンなどケシ科の花, ウラシマソウが咲いていました。また, 尾根ではセイヨウタンポポしか見られなかったのですが, 宮前の峠にはカントウタンポポが見られました。

当日はちょうど大潮で最大干潮の時間に小網代湾に到達しました。長谷川造船さんの脇から岩場を伝って干潟に行き, ちょっとした干潟観察会を行いました。まだ, 風が冷たく,



天気もよくないためカニたちの動きは少々鈍いようでしたが、チゴガニの食事の様子をしっかりと観察できました。干潟からはスタッフ2名、参加者6名が合流し、総勢30名となりました。昼食後、河口の石橋まで行き、ほぼ完成した散策路を見ながらまとめの会としました。この時点から雨が降り始めたため、北尾根を急ぎ足でのぼりそれぞれ帰途につきました。

昭和の日は晴れる日が多い特異日なのですが、今年は厚い雲が覆い、少々残念でした。しかし、観察中は何とか雨は降らず、風も吹かなかったのでよい観察会になりました。小網代の谷がはじめてという方も多かったようなので、よいきっかけ作りになったのではないかと思います。

(文:矢部和弘、写真:松下景太・浪本晴美)

ご参加の皆さまからのメッセージ

とても興味深くお話をきけました。
ありがとうございました。

柴田さま

とても貴重な場所だと聞いてはいましたが、こんなに様々なものが見られて、本当に良かったです。知らずに過ぎていた自然がとても面白く感じられました。

田越さま

今日は貴重な体験させて頂き今まで個人では来れなかった地に入れ、とても良かったです。先生の植物の説明を聞いたこと、小網代の森のすばらしさを再確認。
ありがとうございました

高木さま

初参加でした。小網代の森に来たかったのうれしかったです。歩きながら色んな植物のことなど聞いて有意義でした。干潟のカニは感動でした。私は鳥が好きなのですが今日は声のみも入れて20種くらい確認できました。旅鳥のチュウシャクシギに会えたのが印象的でした。

高島さま

年に1度の小網代の森
今年も元気に参加して、歩くことができました。けわしい道も、皆様の支援で無事走破できました、
ありがとうございました。

柿島さま

本日はありがとうございました。
身近な自然がとても貴重であることを改めて知ることができました。
オープン後、また見に行きたいと思います。

櫻井さま

チゴガニのダンス、はじめてみました。次は湿地の植物も見たいですね
ありがとうございました。

西村さま

いい所ですね
絶対に残しましょう。

入木田さま

雨の降らないうちにと歩いた観察会
マテバシイ、フジ、ミズキなどの木やアカバナユウゲショウ、キュウリグサ、ナツトウダイなどの草花も見られて、楽しい会でした。昼食が終わったころ雨、まあラッキーといえる。
講師の矢部さん、参加者のみなさんありがとうございました。

須田さま

干潟のカニがみれて楽しかったです。

神田さま

会員の中野さまから、自然観察&クリーンの運営に関して、貴重なご提案を賜りました。これからの観察会の参考にさせていただきます。
ありがとうございました。

編集スタッフ

※ 観察会は NPO 法人小網代野外活動調整会議と共催で実施し、アカテガニ広場を使わせていただきました。

※ 一部森に立ち入ったかのような表現がございますが、通行が制限されていない部分のみを歩きました。

随想 小網代てんてん ⑫

あるがままに——アメリカフウロ

須田漢一

春の小網代自然観察会で、更地さらちに群生する名の知らない草を見た。

草丈は15センチくらい。茎はからみ合い、細い葉は深く裂け、淡紅色の小さな花が、ひっそりと顔を出している。

一瞬、ゲンノショウコかと思ったが、どこか違う。通りがかりの人は、ただの雑草としか見ないだろう。いや、目に止まらないかも知れない。けれども、やさしげな花の感じと、鋏で切れ込みを入れたような葉の形に、何かひきつけられるものがあった。

あるがまま雑草として芽をふく(山頭火) 家に帰って手持ちの図鑑をめくる。

フウロソウ科 アメリカフウロ(北アメリカ原産) それからは道を歩くと、アメリカフウロが呼びかけてくれた。

5月中旬、横須賀市自然・人文博物館のフェンス

下に、一株の中で花が咲き、葉を色づかせ、尖った果実を付けている。せわしない生活を送っているのだ、と思った。6月初旬、久里浜駅前のポピー畑の縁へりで数株を見たが、帰りには全て抜かれていた。園芸種の方が大事らしい。6月中旬、博物館のものは、葉がかすかに紅葉していた。ゲンノショウコのあざやかな紅葉に比べ、焦げ茶色が固まっていたもの足りない。

しかし、と思う。一生を一年間で終わらせねばならないこの草の短命さを思うと、人間の美意識だけで勝手な解釈はできない。道ばたで見かける草を、たいていの人は、名前も知らず、その成長を見届けるより先に、単なる雑草として踏みつける。

それが、珍しい草、絶滅危惧種などと、マスメディアで情報が発せられたときだけ、人は逸早くとび付き、声をあげて保護をさげふ。中には、そんなに貴重なものだったのか、と盗掘したり、売買したり、自分が手にしたものを自慢げに話す。

高山植物のハクサンフウロ・タカネグンナイフウロ・チシマフウロ・アサマフウロなどは、マニアすいせんに垂涎の的となり、この目で見よう、写真に写さねば、と

大勢が押しかけ、山を踏み荒す。

どれもアメリカフウロやゲンノショウコとそれほどの違いはないのに、なぜ、人は色分けをした名のあるものだけに、熱をあげるのだろうか。

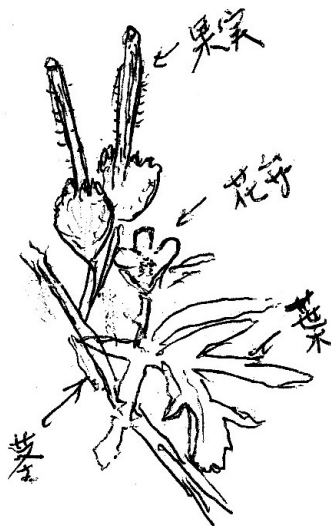
と、勝手なことを思っているが、アメリカフウロには、何の意に介するものではない。

少しの土があれば、そこに芽を出し、光合成をして、茎を伸ばし、葉をつくり、花を咲かせ、昆虫や風の助けで交配し、それがかなわぬ時は自家受粉をし、実を飛ばし、ひととき色つき、枯れていく。

再び訪れる春、更地のアメリカフウロは、人の手によるものか、他の草に占有され、消えているかも知れない。

あるがままの草として生きる。ただそれだけ。

(2013 4 / 29 他 観察)



* 前号小網代てんてん⑩に編集集中に生じた誤記がございました。
 誤「横須賀市衣笠大善寺の不動像」↓正「横須賀市衣笠大善寺の不動像」
 お詫びし訂正させていただきます。

干潟の雑学 (12)

巻貝の蓋のはなし、その1

巻貝の蓋で皆さんがよく目にするものはサザエの蓋でしょう。高級漆器の螺鈿細工などに用いられるヤコウガイ (*Turbo(Turbo) marmoratus* Linnaeus, 1758) は世界最大のサザエの仲間です。蓋は直径8センチくらいもあり、重さも150グラム近くあります。

江戸時代の禅僧の良寛さんもサザエの蓋がほしいと歌っています。

弟からきず薬をもらったがその蓋がなく、サザエの蓋がちょうど良いので送ってほしいと手紙に書いたときに手紙に添えた歌で

“世の中に 恋しきものは 浜べなる さざえの貝の ふたにぞありける”

と詠んでいます。

皆さんがよく知っている江戸いろはカルタの一つに“割れ鍋に綴じ蓋”(割れ鍋に閉蓋と書くのは間違い、似たもの同士がよいことのとえ;江戸時代初期の毛吹草)という文がありますが、巻貝もそれぞれに合った蓋を持っています。

巻貝の蓋にはさまざまな種類があります。そして蓋を持たない巻貝もあります。

貝の巻きの方向性は貝が成長する方へ向かって右側へ回転するか、左側に回転するかによって区別できます。右巻きの貝では生殖器官が右側に位置し、左巻きの貝では左側です。大部分の巻貝は右巻きで、左巻きは少数です。笠型貝類の中のカサガイ目は幼生期には他の腹足類と同様にねじれ現象が起こりますが、左右対称の筒型の殻を形成します。カサガイ類の軟体部は食道も神経もねじれていますが、貝殻は左右対称です。

巻貝の殻頂持って摘んだ殻頂の方向から見たときに時計回りに巻いていけば右巻き、反時計回りなら左巻きです。ラセン型の蓋は貝殻が右巻きのものでは蓋は左巻きで、貝殻が左巻きのものは蓋が右巻きとなります。貝殻と蓋とは巻く方向が反対です。

サザエやスガイの蓋は石灰質の厚い蓋で外からでは巻く方向がよくわかりませんが、サザエでは食べた後、蓋を内側から見ると貝殻の巻く方向と同じ時計回りになっています。確認してみてください(蓋は外側から見ると反時計回りです)。

貝類学者で貝類学会の母といわれる瀧巖先生の考察によると

蓋の分類について

巻貝の蓋の巻き始めのところを核と呼びます。巻貝の蓋は核の位置や巻き方などによって、また角質であるか石灰質であるかによって分類されています。

蓋を大きく分けるとラセン型、同心円型、薄葉型になります。ラセン型はそのラセン数、核の位置からさらに多旋、少旋、亜旋に分けることができます。多旋型にはニシキウズガイ科 (*Trochidae*、バティラ、コシダカガンガラ、エビスガイなど)、ウミニナ科 (*Batillariidae*) などがあり、ラセン数は9-12回くらいです。少旋型にはサザエ科 (*Turbinidae*)、タマキビ科 (*Littorinidae*) などがあります。亜旋型にはアマオブネ科 (*Neritidae*)、タマガイ科 (*Naticidae*)、クルマガイ科 (*Architectonicidae*)、カワニナ類(カワニナ科 *Pleuroceridae*) などがあり、



ラセン部が蓋の端に偏在しています。多旋型には特殊な形態をとるものがあります。中空の管を多数螺旋型に巻きつけた様な平巻貝型、中空な円錐形の塔型、形がソロバン珠に似ているソロバン珠型などがあります。亜旋型には角質のものと石灰化したものがありますが、石灰化したものの中でアマオブネ科ではラセン部が極めて小さく前端に偏在しており、蓋の殻口の内唇の前方に接する部分にトゲ状の突起があります。このトゲ状の突起によって蓋の面と内唇をはさむようになっているので関節型と呼びます。この型がさらに進んでラセン部を全く失うと放射型となります。さらに進むと蓋は細長く鱗片状になります。同心円型の蓋は中心部に核があり、ここを中心に同心円的に成長して行きます。この同心円型では核が中心部から周辺部に移動したものが多く、この型を偏心円型とよび、その核の位置から外偏心円型、前偏心円型、内偏心円型の3つに分けられます。しかし核が後部に移動したものはありません。ラセン型から同心円型に移行する中間型と考えることができるのが旋輪型です。薄葉型は重ねた紙を規則正しくずらしたときのような平行線のあるもので核はその一端にあり端型核ともいいます。その中核の外縁にあるものを外核型とよびます。これにはレイシ (*Thais (Reishia) bronni* (Dunker, 1860))、アカニシ (*Rapana venosa* (Valenciennes, 1846))、などがあります。前端にあるものを前核型といい、ナガニシ属 (*Fusinus*) などがあります。この型の特殊化したものとしてシドロガイ (*Strombus (Doxander) japonicus* Reeve, 1851) やマガキガイ (*Strombus (Conomurex) luhuanus* Linnaeus, 1758) などに見られるように蓋の外縁に鉤を3から6個持つものがありこれを有鉤型と呼びます。マガキガイは奄美地方ではトビンニヤ(跳ぶ貝)と呼ばれており、蓋にある鉤を使ってジャンプします。また、イモガイ類(イモガイ科、*Conidae*) はこれに似ていますが細長くなって退化的なので爪型と呼びます。ラセン型と薄葉型との中間型と思われるものが旋葉型です。これらは蓋の位置から外核型に移行する一過程とも考えられます。またラセン型から薄葉型に移行したと思われるもので全体として前核型と似た状態になっているものを擬前核型と呼びます。

蓋の進化と系統

原始的な腹足類では蓋は多旋型で高等な腹足類では薄葉型です。多旋型の蓋では成長縁は殻口内唇後端に接触し、成長とともに蓋は少しずつ前の方に押しやられながら回転します。蓋の原始的な型式は多旋型と考えられ、進化とともに蓋が成長するにしたがって回転する速度が鈍って少旋型、亜旋型になったものと思われる。多旋型の中連続多旋型、平巻貝型、塔型、そろばん珠型、のそれぞれは扁平で単一な原型から立体的に進んだものです。

少旋型では原型と石灰化型(例えばサザエ)の両方の型が見られます。亜旋型でも原型と石灰化型の両方の型が見られます、特にタマガイ科 (*Naticidae*) ではこの両方の型が見られ、ラセン数は石灰化したものが角質のものよりも少ないです。そしてアマオブネ科 (*Neritidae*) のものは石灰化型のさらに進んだものであり、ラセン部が著しく縮小して内縁に膨出部とトゲを生じて特殊化しています(関節型)。亜旋型の次に同心円型が生じたと思われます。亜旋型と同心円型の中間型が旋輪型です。同心円型で特殊化したものが有棘型です。同心円型ではその核が周縁に移動する傾向があり、前、外、内の3方向のものが見られます。外偏心円型、前偏心円型、内偏心型です。同心円型で核が一端に移動して薄葉型に移行したものと思われる。外

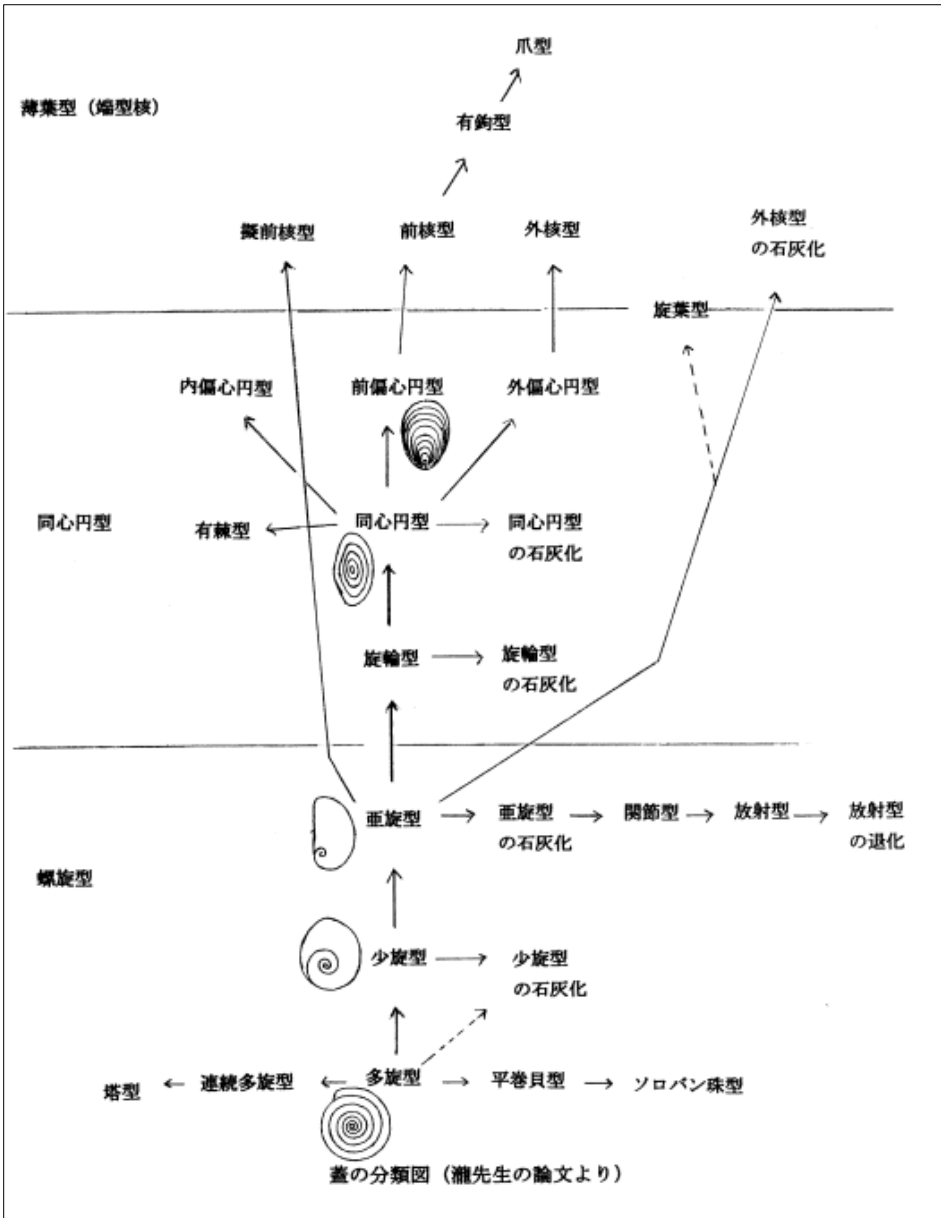


偏心円型から外核型へ、前偏心円型から前核型へ、内偏心円型から薄葉型に移行したものはありません。偏心円型、薄葉型のものは原則として石灰化したものではなく、(例外として、ヒラサザエ類)角質のまま肥厚して殻口の閉鎖に適しています。前核型、外核型、擬前核型の3型が高等な前鰓類の代表的な蓋の型式です。これらの中からさらに進んだものは前核型からの有鉤型(ソデボラ科(スイショウガイ科); *Strombidae*)と爪型(イモガイ科; *Conidae*)だけです。

小網代の干潟にもツメタガイ、コシダカガンガラ、アカニシ、タマキビ、アマオブネなどいろいろな蓋を持つ貝が暮らしています。小網代の干潟では小さな巻貝がほとんどです。ルーペを使って蓋の巻き方の違いを観察してみてくださいはいかがでしょうか。

(小倉雅實)

蓋の分類図 (瀧先生の論文より)



コシダカガンガラの多旋型の蓋



タマキビの少旋型の蓋



ツメタガイ(タマガイ科)の重旋型の蓋

参考資料:
貝類雑誌16(1-4)1950:腹足類の蓋の形態学的考察

春の図鑑

中井 由実

ヤブジラミ

緑色のレースの葉にあしらわれた極小の白い花

ウツギ

ふくらんだつぼみ 既にまん丸い花のよう

フジ

コナラの木の上で青紫色に満開

小網代のことを書いてみると

手帳が自然に図鑑になってくる

アカメガシワ

幼い芽のなんとという深紅

二十五年前

湾岸域開発の調査報告書を書いていた頃

図鑑ができていくね と

のぞきこんだ同僚に言われた時から

私は その季節ごとの

絵の無い図鑑を書いてきたのだ

牛はこべ

少し花びらを伸ばし始めたところ

ムラサキケマン

花を落としたしべの姿が 並んだカマキリのカマのよう



かたつむり

中井 由実

大きなかたつむりを草かげで見つけた

かたつむりとは こんなにも

のびのびと 体躯を伸ばすものだったのか

長く、うすく中広く

私が見ていることなど 注意をはらわず

音もなく小さな葉を喰んでいく

雨上がりの小網代

ひっそりした小径で

目を閉じても

中井 由実

透きとおったウグイスの声がするから

ここから小網代の森の入口

花見の時期は終わったけれど

近くに桜があることはただよう匂いで分かる

ふんわりしたビロードの手触りは

シロダモの木の新芽

見上げてごらんと誘ってくる

甘い香りのフジ

早口のユジユケイがまくしたてる

コッチ、コッチの声につられてしまえそう

何年来ていなくても きつと分かる

なじんだ小網代の

手ざわり

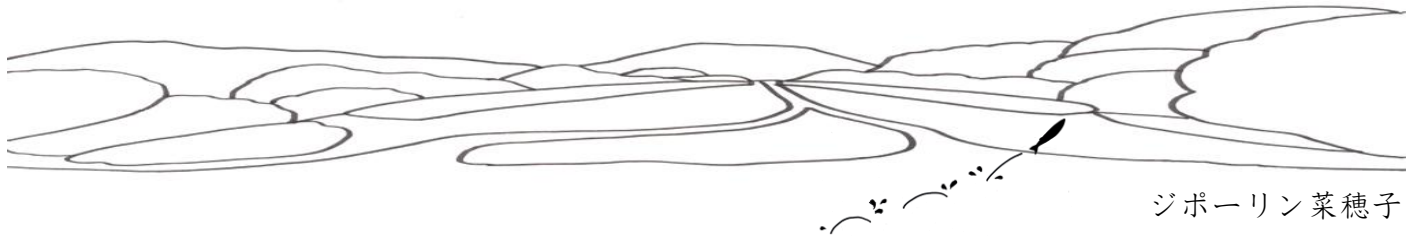
匂い

声

もういいよ、目を開けて

春の景色が飛びこんでくるから

イナセで、ずぼらで、グローバル



ジポーリン菜穂子

小網代湾を時折、ぴよんぴよんと飛び跳ねています。遊びにきた子供たちは、「うわっ、トビウオだぁ。」なんて言い交わしていますが、これは、ボラ。鰯、あるいは、鰯と書きますね。どうして、跳びはねているかという、諸説あるようです。まずは、体についた寄生虫を、取り除くため、という理由。海中にいる寄生虫は空気中では生きられないからとも、海にドボンとするときの衝撃で、虫をやっつける、とも言われています。それから、水中の振動を微妙に感じるから、という理由。漁船などのエンジン音を感じるのでしょうか。あるいは、ボラをねらって、大きな魚がやってきているのを感じるからでしょうか。そして、水面にいる蚊や蜻蛉のような小さな虫を食べるため、という理由も。あんな大急ぎで食べられるのでしょうか。ボラは、海を漂っているプランクトンなども食べているようですよ。それから、頭を泥に突っ込んで餌を食べる、とも考えられています。それが、名前の由来とも考えられています。つまり、掘るから、ぼら、なのですって。

実は、海の底、汽水域の泥は、栄養たっぷりなのだそうです。泥には、生物体の破片や排出物が含まれているからです。泥は生きているのです。そして、ボラは、泥といっしょに、そこに生えている藻類も食べているそうです。そこで、海がきれいでしたら、いくら泥を食べていても、食味のよい魚になるわけなのです。昔はボラは、とてもおいしい魚だったようですから。江戸時代から昭和の初期まで、東京湾でも、ボラの養殖が行われていたようですよ。江戸前というのは、目の前の海でとれた魚、というわけですから。キスを釣って食べていたのですってね。大川（隅田川）の流れがきれいだったのでしょうか。ということは、その源流の森も、豊かな森だったのでしょうか。ボラも高級な食用魚だったようですよ。「寒鰯、寒鰯、寒鰯^{フリボラガレイ}」なんて言われていますね。ボラの胃の幽門を塩焼きにすると美味しいそうですが。「ヘソ」とか「ソロバン」と呼ぶそうです。

また、古代ローマなどでも、珍重されていたようです。たとえば、ポンペイの遺跡からは、ボラを使った古代ギリシャのレシピが出てきたらしいです。ポンペイの遺跡というのは、79年にヴェスヴィオス火山の噴火で埋もれてしまった古代ローマの都市です。イタリアの考古遺跡です。セネカなどは、ボラなどの魚をグルメのもとにとどめるために、息せききって、大声をあげて、往来の人にどいてもらいながら、走って運んだ、など書いているそうです。泥さえ、あれば、どんな水域でも、生きていけるわけですから、小網代湾だけでなく、世界のいろいろなところで、ぴよんぴよん跳ねていたとしても、不思議はありませんね。ナイルの河口でも、ボラは跳んでいるようですよ。ムギール・セファルスと呼ばれているようです。



ボラそのものも、食べられていたようですが、古代世界では、ボラなどから、調味料も作りました。作られていたのは、魚醤。ガルムと呼ばれます。ポンペイの遺跡からは、ガルム工場のモザイク画が発掘されています。つまり、「しょつつる」、「いしる」は、

古代ローマの味、というわけです。

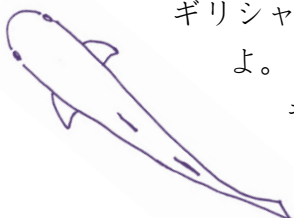
ガルムにもピンからキリがあって、良いものは、贈答品などにも使われたようです。古代ローマの博物学者プリニウスは『博物誌』に精力的な筆をふるっていますが、そこにも、ガルムのこと書かれています。ガルムを薄めて、飲み物にしたそうですよ。蜂蜜酒のような色をしていたそうです。これが、古代ローマでは、万病に効く薬とされていたそうです。犬に咬まれた傷から、下痢や便秘、はたまた、赤痢にまで効くと考えられたのです。また、脱毛や、そばかすの除去にも、使われたそうなのですが、これも飲んで効く、と考えられていたのでしょうか。それとも、顔に塗っていたのでしょうかねえ。東ローマ帝国では、『ゲオポニカ』という農業書が、コンスタンティン七世のもとで、編纂されました。これにもガルムの製造法などが記されています。

さて、この魚醤、イギリス製のウスターソースにも入っています。リーベリン社 (Lea and Perrins) 製です。日本でも、このへんでしたら、元町ユニオンとか、京急百貨店内の京急ストアのような、少しおしゃれなお店で、手に入りますね。ところが、日本製のウスターソースには、魚醤は入っていないようですよ。ウスターソースの名前は、イギリスのウスター地方から。ところが、これ、スペルが、Worcestershire sauce。どう読んでも、ウオセスターシャー・ソースでしょ。でも、これ「ウスター」で読むのです。(イギリス) 英語のスペルって、ややこしいですね。フランス語などは、わりと発音どおりのスペルですよ。

古代ローマの味、さらに、古代エジプトの味、まだありますよ。日本三大珍味のひとつ、カラスミです。東でも西でも、今も昔も、たいてい、ボラの卵を乾かして作るのですね。ポツタルガという名前です。古代エジプト人も食べていた、ということが、どうして、わかるかという、古代エジプト人は、お墓に、それまでの生活の道具をいっしょに埋葬していたから。死後の世界を信じていたのですね。それで、お料理の道具などが出てくるそうなのです。お弁当セットなどもでてきたのでしょうかね。エジプトのルクソーなどの遺跡も、すごいですね。しかし、お墓と考えると、そっとしておいてあげたい気持ちも。でも、古代の生活も知りたいし・・・。

ところで、エジプトは、パン発祥の地だそう。小麦がとれたのでしょうかね。ついでながら、日本三大珍味、あとのふたつは、「うに」と「このわた」。さらについでながら、中華三大珍味は、「フカヒレ」「干しあわび」「燕の巣」。ちなみに、かぐや姫が、プロポーズを受ける条件に中納言石上麻呂に頼んだのは「^{いそのかみのまろ}燕の子安貝^{つばくらめ}」です。この子安貝というのは、タカラ貝のこと。安産のお守りとされていたようです。でも、どうして、燕の巣にあるタカラ貝なのしょうね。さて、さらにさらに、ついでながら。世界三大珍味は、「トリュフ」「フォアグラ」それに「キャビア」。鎌倉の公設野菜市場を出て、海側のところ、焼き鳥のお店がありますね。ベンチもあって、その場で缶ビール片手に、頂くこともできます。なんかオシャレ。そこでは、焼き鳥にまじって、「焼きフォアグラ」を串に刺して、売っていますよね。

さて、ギリシャの「キャビア」というとカラスミ、ポツタルガのこと。ギリシャでは、「アヴゴタラホ」という名前で売られているそうです。ギリシャで2番目に長いアケオロス川と、エヴィノス川の、ふたつの河川が流れてくるメロンギ潟の名産品だそうです。ギリシャなら、スーパーなど、どこでも、このメロンギ産カラスミ、手に入るそうですよ。蜜蝋で、まわりを固めているので、いつまでも新鮮のまま、味わえるそうです。ギリシャを訪れる外国の首脳へも、おもてなしやお土産にも使われるギリシャ代表の食品のようです。古代ギリシャからの伝統の食品です。古代ギリ



シャからは、アラビアへも伝わったようです。イタリアでは、レモンや、オリーブオイルをかけて、召し上がるそうですね。うわ。おいしそ。今では、アフリカや、アメリカ合衆国でも生産されています。合衆国はフロリダ。アフリカは、モロッコのちよい下にあるモーリタニアや、また、さらにその下のセネガルで作られているのです。ボラは、グローバルに活躍してますね。

日本では、「カラスミ」となり、グルメの間では大活躍です。大阪時代に、中国の明から、長崎を経由してやってきたそうです。大阪時代、というのは、安土桃山時代のこと。桃山というのは、あとから付けられた名前なので、実情を的確には表していないだろうと、今では、統治者の名前で、織豊しよくほう（織田信長＋豊臣秀吉）時代、あるいは、場所の名前で、大阪時代などと、呼ぶのだそうです。

その名前は、中国の唐の墨、からすみ、に、形が似ているからだそう。日本原産の墨は「和墨」、中国が原産（特に文化大革命以前）のものは「唐墨からすみ」です。唐墨は、墨を固めるときに使われる膠にかわの量が、和墨よりも多いそうです。そうすると、どうなるかということ、漢字が書き易くなるのだそうです。和墨は、墨が柔らかいわけですから、仮名文字には、ぴったんこ！ということなそうです。滲みや芯の具合が、微妙にちがうのだそうです。この唐墨と和墨をブレンドして、お使いになる方も多いそうですよ。自分の好きな墨色ができるのだそうです。墨を何本かもって、何年かねかせておく、ということもするそうですね。何にしても、この墨を擦る時間というのが、よいですね。気持ち静まります。墨汁では、時短になりますが、大切な部分が抜けてしまっている気分ですね。さて、あのボラの卵の塩乾品が「唐墨」だとすると、その昔、唐では、薄い桃橙色の墨を使っていたのでしょうか。そんなわけはないですよ。ということは、昔の食品のカラスミが、墨色に近かったのでしょうか。保存状態などを考えると、少し日が経ったものは、黒ずんでいた、ということでしょうね。

さて、なかなか、洒落た命名です。謂れがありますが、事実でないことが、わかりました。本当の命名者は、まだ謎なのです。伝説では、戦国の名将、鍋島直茂の機転によるもの、とされています。佐賀藩のもとを築きました。名将たる所以のひとつは、家来から、大名になったこと。しかし、お仕えしている龍造寺隆信を蹴落とした下克上ではないのです。さらに上にいらっしゃる太閤さんが、隆信の、いわば、任をとき、鍋島直茂を指名したわけで。つまり、昨日の部長が今日の部下、みたいなことでしょうか。そんな状況でも、隆信派とも上手に折り合いをつけ、藩主には、ならなかったものの佐賀藩の藩祖となったその手腕を、評価する人も多いようです。

当時、太閤さんは、半島と大陸に興味津々でした。そういうところから、この北九州は大事な拠点だったのでしょう。この太閤さんに、ボラの塩蔵卵巣で、おもてなしをして、唐の墨でございます、なんてのは、たいした機転ですよ。この頃、ヨーロッパでは、東インド会社を設立していました。また、信教の自由を認めた、ナントの勅令とか。シェイクスピアも活躍していました。それから、ガリレオが、天体望遠鏡を発明し、ケプラーが天体の三法則を発見しています。

さて、この鍋島直茂藩祖、名前がたくさんありますよ。ニックネームがあって、孫四郎、それから、左衛門大夫、龍造寺の仁王門、老虎。また、成長とともに替わって行く名前もありました。幼いときは、彦法師丸、そして信安→信真→信昌→信生、で、→直茂。こんなふうには江戸時代まで、お侍さんたちは、元服をしてから、名前を次々に替えていました。もちろん、趣味の会でのハンドルネームや、ニックネームのようなものもあります。直茂と同じです。一生のうち、いろいろな名前があり、これが、外国の研究初心者には、とても厄介なんですよ。同じ人なのに、別人だと信じて疑わなかったということも起こるんです。

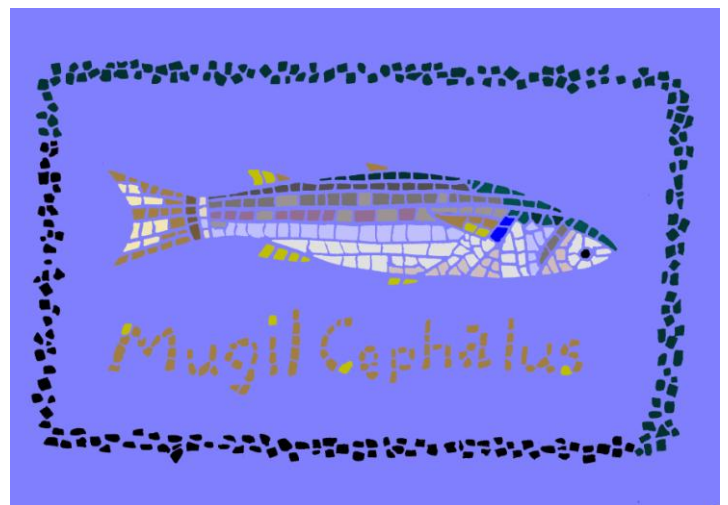
魚にも、ありますね。成長に伴い、名前が替わるもの。縁起をかついで「出世魚」と呼んでいますね。愉快的なネーミングです。ブリが有名ですが、ボラも出世魚です。それからスズキも、出世のお仲間。呼び方は地方によっても異なるようです。ボラは、関西では、ハク→オボコ→スバシリ→イナ→ボラ→トド。関東では、オボコ→イナッコ→スバシリ（州走）→イナ（鰯／鰯）→ボラ（同じく鰯／鰯、80センチ以上のものだそうです）→そして、トド。どちらも、トドが最終形。「とどのつまり」です。おぼこは、おぼこいこと、幼いこと。

そして、若いボラ、つまりイナの青い背が、江戸の男性の頭の剃り跡、^{さかやき}月代、と言いますが、それを彷彿とさせるので、「いなせ」という言葉ができたとか。日本橋の魚河岸で働いていた、勢いもよくて気っぷもいい、お兄さんたちのチョンマゲが、イナの背びれみたいだったから、「いなせ」とか。てやんでい、すつとこどっこい。みたいに話す人たちですね。かっこいい。また、「イキ」というのもあって、「いきな深川いなせな神田」なんて、江戸後期の小唄に唄われています。神田には、職人肌の人たちが住んでいたのですね。「イキ」については、ぜひ、九鬼周造の『「いき」の構造』をご参考ください。また、これの対極が、たとえば、「博雅な」とか。さように承知つかまつり、そろろうでござろう……。みたいにしゃべる男性。どちらもかっこいい。それに、見た感じだけではなく、お人柄まで、表していますね。「風流」なんてのもあります。女性を表すのに、「小股の切れ上がった」とかもあります。今となっては、イケメン、なんていう表面上のことだけを表す言葉だけです。現代は、言葉からも乖離してきているのでしょうかね。

鰯の跳ね これ見よがしの 勇み肌 真貝豊太郎

参考にした本：

- 藤原昌高『からだに美味しい魚の便利帳（便利帳シリーズ）』（高橋書店 2010）
- 弓削達『素顔のローマ人：生活の世界歴史4』（河出書房新社 1991）
- プリニウス『プリニウスの博物誌』中野定雄ほか訳（雄山閣 1995）
- Geoponika: Farm Work, trans. by Andrew Dalby, (Prospect Books, 2011).
- Aquaculture of Grey Mulletts, edited by O.H. Oren, (Cambridge U. Press, 1981).
- 九鬼周造『「いき」の構造』（岩波文庫 1930）
- 『川柳歳時記』奥田白虎編（創元社 1983）



次ページに小倉さんの干潟愛コーナー続きます。

スゴイ！！小倉さんの干潟愛コーナー！干潟なのに深い！

今回のボラの話には美味しそうな名前がたくさん出てきて食欲をそそりますね。

貝にもボラがいます。

貝のボラはホラガイの仲間です。この仲間はフジツガイ科でホラガイの他に、ボウシュウボラや、小網代でも見られるカコボラやククリボラがあります。



ボラはグローバルであるとの話ですが、フジツガイ科の貝もグローバルです。

この貝の仲間は、他の貝に比べて浮遊幼生期が異常に長く（卵がハッチしてから変態まで4～5年要する種も）大洋を横断して分布を広げることが知られています。

小網代でも見られるカコボラは、オーストラリアやブラジルあたりでも見られるようです。

ホラガイは殻頂の部分をすり欠き、吹き口をつけて山岳仏教の山伏が用いたり、

戦国時代には戦場での合図に用いられたりしたので、梵貝、陣貝などとも呼ばれていました。

ホラガイは雌雄で殻の形が違います。殻が少し小さくて、殻頂に向かって細くなっている方がオスで、大きくてより膨らみが大きい方がメスです。

というわけで、吹き鳴らすのに適しているメスの貝殻が、ホラガイ笛として使われます。

小網代新時代もホラガイを吹き鳴らして出陣ですね。

いちご川だより Vol.4

いちご川の上流には、鹿がいます。七面鳥もいます。僕の住んでいる寮は、山側なので、たまに、鹿に出会うときもあります(奈良の鹿のようにお辞儀はしてくれませんが(笑))。キャンパスの山側には、植物園もありますが、いろいろな科学の研究施設もあります。そして、キャンパスには、スクールバスが走っています。2種類あって、キャンパスをめぐるバスと、この山の上の研究施設循環のバスもあります。ふつうのキャンパスバスは、学生証があれば、乗れますが、こちらのバスは、チェックが厳しいです。研究者でなければ、特別な許可証が必要です。

このあいだその機会がありました。僕は、くわしく調べられましたが、ほとんどの研究者とバスドライバーは、顔みしらしく、すいすい乗り、バスドライバーと、ひとことふたことおしゃべりをして、乗っていきます。ここで、聞く英語は、ふつうの英語もありますが、外国人のしゃべる英語も多いです。そして、乗ってくる人たちも、本当にさまざまです。僕の先入観か、東アジア系が多いような気がしますが、科学の発展のためには、人種とか国籍とか関係ないんだなあと思いました。

敷地内にはいるところでも、検問所があり、詳しく調べられます。そして、そこを超えると、まるで、林間学校です。山、木、鹿、なのに、そこに、最新のビル、ところどころ建っているところは、とてもシュールです。ビルの中には、原子力研究センターなんていう所もありました。検問が厳しいわけです。

そして、この科学センターからの眺めがすばらしいのです。パークレイ校のキャンパスの向こうに海が見えます。この先は、日本なんだなあ、と思いました。ふつうのキャンパスバスでもローレンス科学ホールまでは、連れていってくれますし、学生でなくても、1ドルを払えばよいだけなので、このバスに乗って山の上まで、来るのは、おすすめです。

ジポーリン周樞



カニグッズ(11)

◆ 生活用品にみるかにの意匠

19. 杯

カニコレクションの中でもピカーなのが小網代詩人で名高い中井由実さんからいただいた赤い漆に金泥でカニが描かれている直径11.5cmほどの杯。銀で描かれた水の流れにアシと岩。これが金泥で描かれています。そこにカニが3匹。後ろ向き、前向き、斜め向きで大小3匹のカニが金泥で描かれています。カニの甲羅は丁寧に盛り金泥で表現されています。何でもお父様が地元の骨董屋さんで手にいれたものとか。鑑定団に出してみましようか。お宝ですね。

2004年1月11日、みんなでこれで甘酒をまわし飲むとメモがありました。恐らく、甘酒を造ってきてくれたのはNさん、森の水神にみんなで森の保全を祈願した時のことなのでしょう。この後、6年経って森の完全保全がなされた時は森の自由通行は許されなくなりましたから、水神にはお参りには行っていません。しかし、みんなの願いを聞き届けてくれた水神様、今後もひっそりと森の行方をお守り下さい。おまけでその時のみんなで唱えた願い事をお伝えします。にうよすまれらもまがろじあこ

20. 筆置きと文鎮

盛岡を旅した折に南部鉄のときに見つけたもの。筆を支えるかにのはさみがよい。文鎮にはかすかに啄木と彫ってあります。なるほど、泣き濡れてかにと戯れたかの啄木を考えてカニなのでしょう。

21. 箸置き3種

陶器の小さいカニの箸置きはいろいろな色で作られています。カニの形の箸置きはKさんからの頂き物とメモがついていました。Kさんはよく花の観察に来てました。竹でできたカニの箸置きもよく考えられています。もっと大きなカニもあります。これは箸以外のものを乗せるのでしょうか。まったく形は同じです。スタッフの松原さんからとのメモがありました。

22. 魚のスプーンとカニのフォーク

自分でたべるのが楽しくなるお子様向けのセットですね。これはスタッフの小倉さんの見つけてきたもの。

23. クルミ割り

大人の手の大きさのもの。つめだけなのでちょっとグロテスク。コレクション箱にはいったまま、まだ使っていません。

19. 杯



20. 筆置きと文鎮



21. 箸置き3種



22. 魚のスプーンとカニのフォーク



23. クルミ割り



随分たくさん、生活の中にカニの意匠があるのが分かります。次回はカニコレクション マグネットの巻をお届けします。

記 かにの生活用品に囲まれた宮本美織

◆メダカの学校は川の中 2014.4. 25

子供たちの愛唱歌「メダカの学校」発祥の地は、神奈川県小田原市。作詞は童話作家の茶木滋によって、昭和25年(1950)発表されたものである。小田原市在住の滋が芋の買い出しの途中、子供と見た小川の情景を詩にしたといわれる。現地の市役所に近い荻窪用水には、それらを刻んだ記念碑が並んでいる。小さな水車小屋もあり小川にはメダカたちが流れに逆らって泳いでいた。

作曲は芸大卒業直後の若手作曲家の中田喜直。歌手はNHKのラジオ放送で、うたのおばさんとして人気の高い安西愛子が歌い好評を博した。やがて文部大臣芸術選奨受賞後に、小学1年生用の音楽教科書へと採用されていった。



三浦市 京急油壺マリンパーク・ピオトープ

めだかの学校は 川の中 そっとのぞいて 見てごらん
そっとのぞいて 見てごらん みんなで お遊戯しているよ

めだかの学校の めだかたち だれが生徒か 先生か
だれが生徒か 先生か みんなで 元気に遊んでる

メダカ科の淡水魚、水質の変化に強く雑食性。目高と書き季語は夏、全国的に別称や方言として2000種もの地方名があるといわれる。英名もrice fishと書き稲の魚といわれる。昔から田圃周辺を生息の場として、メダカやスズメは親しみやすい私たちの身近な生き物だったのである。

平成25年(2013)年11月に海老名市で開催された、「田圃の生き物」の勉強会へ参加をした。その時に、講師の神奈川県水産課のAさんからメダカについては単にメダカと呼ばないで、ミナメダカとキタノメダカと分類してほしいと解説があった。

現在では、絶滅の恐れある野生生物種のレッドリストとしてオオカタ等数多くの生き物たちと共に環境省の絶滅危惧種に指定されている。

最新版の図鑑等で確認すると見た目では同じようでも遺伝子を調べた結果、日本のメダカは大別すると2種類でキタノメダカとミナメダカに分類できることがわかったと記載されていた。体長は約3センチ背びれが小さく、体の網目模様がキタノの方が濃く見慣れると模様で判断できるという。

エリヤで大分類すると、京都府から青森県までの日本海岸側に生息するのが、キタノメダカ。それ以外の本州から九州沖縄までがミナメダカといわれる。

上記のことから神奈川県内に生息するメダカを、ミナメダカと呼んでほしいと説明があったものである。現在ではほとんどが放流による2次的な分布といわれる。昔からの確実な生息地は、富士山や丹沢山地を水源とする酒匂川水系で小田原周辺の用水路など、ごく一部の水域といわれている。三浦半島最後のキツネは昭和50年代に大楠山で捕獲されている。小網代の森に生息するタヌキ、イタチ、ノウサギ達も、平成の世になってから絶滅したといわれないように大事に守ってやりたいものである。

先年、神奈川メダカサミットも開催され、市民団体や行政、専門家等が集まり活発な議論が展開された。群れで泳いでいても、水面に近い方がエサを捕りやすいので大きいメダカほど上の方を泳ぐといわれる。注意として、メダカが自然界で混ざりあい遺伝子の攪乱を引き起こさないよう、夜店やペットショップ等で購入したメダカを安易に近くの川や池へ放流しないでと記載があった。

ミナメダカは南方起源なので、高水温や酸欠にも強く小さなピオトープでも飼育が可能という。メダカの生育に適した池や水路が消えて、コンクリート製の水路が各地で目立つようになってきている。自然の生活環境が悪化しているのである。

世界のメダカ属の分布について、インド、スリランカから東南アジア、中国大陸、朝鮮半島、日本などアジアに14種が分布しているといわれる。そして野生のメダカと観賞用のクロメダカとヒメダカ等が親しまれている。

メダカは条件が良いと1年間で何度も世代交代する。水質汚染、発生学、遺伝学などで長く貢献した実験魚で、世界中でmedakaと呼ばれることが多い。活動期は3. 4月頃からで繁殖期は5. 6月頃からといわれ、野外のメダカの平均寿命は約14ヶ月位という報告もある。

1994年7月9日、アメリカのスペースシャトルが雄雌各2匹計4匹のメダカを搭載して宇宙へ飛び立っている。無重力の世界で受精産卵行動等が正常に行えるのかを調べるのが主目的であった。

これらのメダカは見事に稚魚を連れて無事に地球へ帰還した。ただ無重力の世界では泳ぎ方を忘れてしまい、しばらくは水槽の底へ沈んでいたが4、5日後には正常に泳ぎ出し関係者を安心させた。これらのメダカたちは宇宙メダカといって全国各地へ、その子孫が配られたと伝えられている。

祖父川精治

◆ 猿島スタッフ会 こぼれ話

猿島って

猿が住んでいたのでしょうか？

あの小さな、山のいただきがぽっかり海に浮かんでいるような峻しい島で、たべものはあったのだろうか？
ととても心配になりました。

鬼が島なら、略奪なのであり得ますが、サルに住む猿島はないな、と思っていました。

日蓮上人が鎌倉へ舟でわたるとき嵐にあい、そのとき現れた白猿が彼らをあの島に導いて救ったという言い伝えによるものとわかり納得したところです。

(K.S)

小網代の森と干潟を守る会の活動

3.2 第31回ナショナルトラスト全国大会参加（於 主婦会館プラザエフ）

3.29 スタッフ会（於 猿島）

4.28 みうらまるごと博物館連絡会参加（於 県総合庁舎）

4/29 第120回自然観察&クリーン。森の外周を歩いて干潟へ。石橋が通行止めのため神社前から干潟を通過して北尾根へ抜けるコースで実施。（担当矢部。参加者25名）

第31回ナショナルトラスト全国大会参加記

東京は四ツ谷での開催でした。「キタキツネからの伝言」オホーツクでの活動35年間のお話でスタート。もともと人工林なのでなにをやってもOKとのうらやましい活動です。でもスタート時の苦労が今は昔だから言えることですね。時間稼ぎに映画を作ったなんてやるのがふるってます。小網代だって、短編記録映像をたくさんの方々が作ってくれましたね。台湾からは沿岸にいるシロイルカの生息海域の保全が国に受け入れられたお話と、台湾初の文化遺産としての駅舎保存が実ったお話でした。この駅舎は日本統治時代の建築物だそうです。アマミノクロウサギの生息地トラストで多数の筆数の土地をそれぞれにスポンサーを募集で完了というのも面白いやりかたでした。それぞれの場所や場合にあった手法を見つけるとゴールに行きつけるものだなと改めて感じました。もちろん小網代だって守られることになって今年オープンです。地元で感動がなによりです。

(伸)

ご寄付ありがとうございます

会の活動費 橋美千代様 矢部和弘様

森の応援金 柴田敏隆様 福井すみ代様 中井由実様 橋美千代様

以上の方からご寄付をいただきました、ありがとうございました

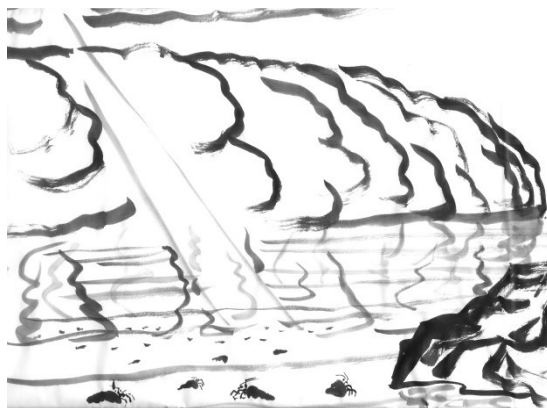
第 121 回自然観察&クリーンのお知らせ

主催：小網代の森と干潟を守る会 共催：NPO 法人小網代野外活動調整会議

◆小網代干潟のカニと生き物

6月の小網代干潟の温度は晴れると25度以上30度近くになり、日差しはもう夏です。干潟周辺ではアカテガニのほかチゴガニやコメツキガニなどたくさんのカニに出会えます。マメコブシガニの歩く様子やカニのダンスをゆっくり観察します。カニを観察しながら初夏の小網代干潟のゆったりとした時間を体感してみたいはいかがでしょうか。

日時：6月14日(土)
集合：10:00 京浜急行三崎口駅改札前(トイレがありませんので必ず駅で済ませてください)
解散：14:00 ころ 現地解散
参加費：無料
講師：小倉雅實氏
申し込み：当日現地で受け付けします
持ち物：長靴、軍手、お弁当、飲み物、雨具、あれば図鑑など、
小さなお子様は着替えもあると安心です。
お問合せ：046-889-0067(仲澤)



NPO 法人小網代野外活動調整会議からのお知らせとお願い

小網代の森と干潟を守る会は NPO 法人小網代野外活動調整会議の活動を支援しています。

トラスト緑地保全支援会員 & 小網代応援団募集

◆トラスト緑地保全支援会員になるには

トラスト財団のパンフレットにある申込書に記入して郵送します。またはトラスト財団のホームページ (<http://ktm.or.jp>) から、申し込むことができます。支援したい緑地にはぜひ「小網代の森」をお選びください。通常のトラスト会費(大人 2000 円、中高生 1000 円、小学生 500 円、家族会員 3000 円)の他に 3000 円の支援会員会費が必要です。小網代の森をよろしく願います。

◆小網代応援団に入るには

NPO 法人小網代野外活動調整会議(電話:045-540-8320 E-mail: koajiro@koajiro.org)までお問い合わせください。

「小網代応援団」に登録していただいた方には、年に数回の特別観察会をご案内いたします。森と干潟の様子をしっかりと見守り、楽しみながら、大好きな森を育てていきましょう。

小網代 森と干潟つうしん NO.134 2014年5月11日発行

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ

小網代の森と干潟を守る会

〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5

代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com

電話 046-889-0067(副代表 仲澤)

URL: <http://www.koajiro-higata.com>

年会費: 一般会員¥1000 賛助会員¥5000(7月~6月 入会金不要)

郵便振替 口座 00260-4-21569 加入者名 小網代の森と干潟を守る会

* 既に退会のご連絡をいただいた方にも年度末(6月末)までお届けしております